

みんなの 町議会

広島県
神石高原町

第64号
令和2年10月15日

9月定例会	2
庁舎・病院の返済計画.....	4
議員定数10人へ	13
町政のココを聞く.....	14
ありゃあどうなったん?.....	23

夢よふくらめ、
家族の力で



かったと実感できる

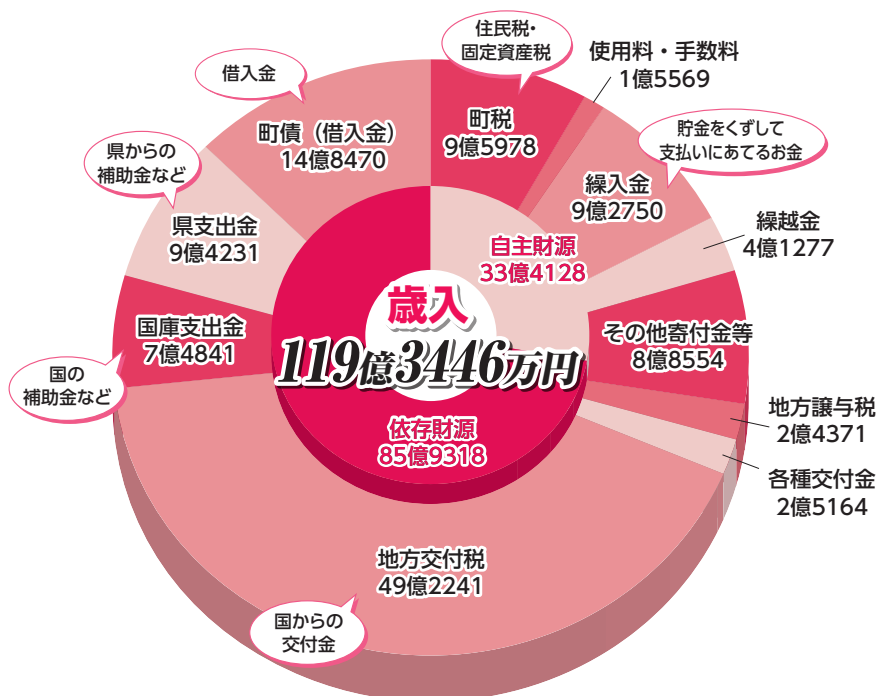
認定

一般会計 **119億3446万円**

9月
定例会

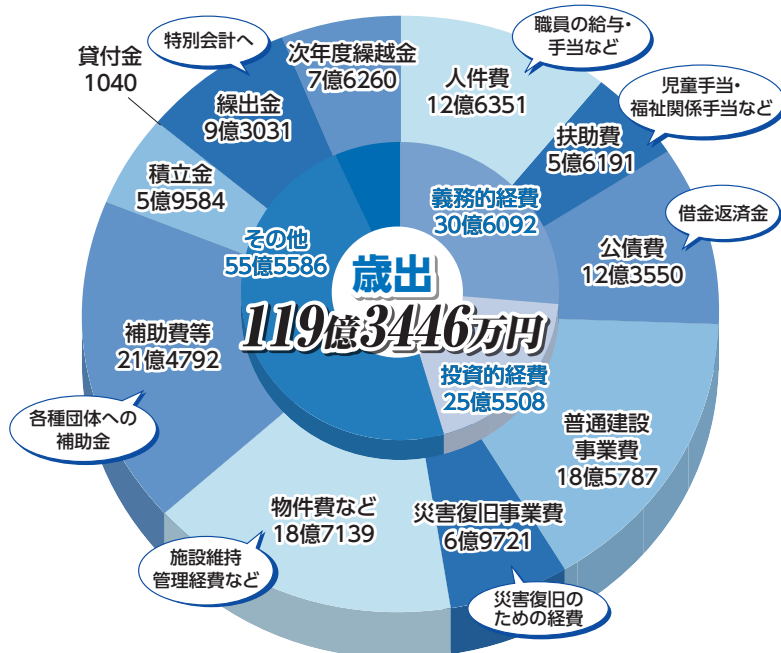
歳入

前年度比で、額にして3億7529万円、率にして3.0%の減。主な要因は繰入金・地方交付税や諸収入の減によるもの。歳入額に占める自主財源率は28.0%で前年度より5.2ポイントの減。



歳出

支出済額の執行率は95.2%。前年度比では4億1511万円、率にして3.6%の減。減少は物件費・公債費など、増加は扶助費・災害復旧事業費など。主な減額要因は、繰り上げ償還経費の減である。



9月定例会は9月4日から9月18日まで開かれました。令和元年度の全会計を決算認定し、令和2年度の補正予算を含め26議案を審議し、すべて原案通り全会一致で可決しました。一般質問では7人が町長・教育長に行政課題などについてたずねました。

令和元年度

住んで良

行財政運営

本町の財政状況

決算に伴う本町の財政状況は、財政健全化法に基づく4つの健全化判断比率(実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率)において、将来負担額が充当可能財源を上回っており、問題ない状況となっている。

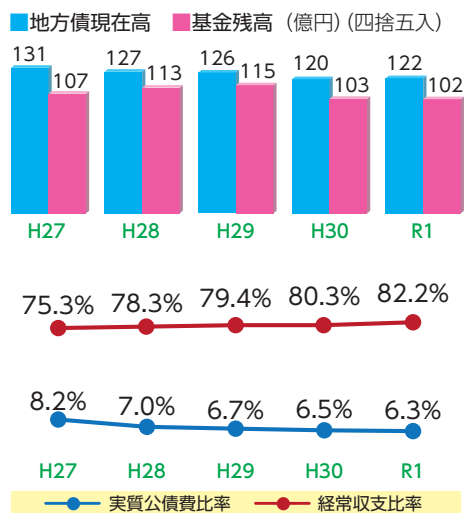
しかし、合併算定替措置の終了による普通交付税の減少や豪雨災害の復旧、庁舎・病院の移転新築などの大型建設事業に取り組むため、財政の健全化に、より努めていくことが肝要である。

令和元年度 各会計歳入歳出総括表

単位：万円(四捨五入)

会計名	歳入決算額	歳出決算額	繰越財源	差引残高	
一般会計	119億3446	111億7186	1億9423	5億6837	
特別会計	国民健康保険	10億7515	9億8398		9117
	後期高齢者医療	3億5534	3億5302		232
	介護保険	18億104	17億6245		3859
	簡易水道事業	2億6454	2億4321	10	2123
	飲料水供給施設事業	4117	3531		586
	農業集落排水事業	2億4662	2億2741		1921
	総合開発事業	1438	1438		
	分収育林事業	5	5		
	計	37億9830	36億1981	10	1億7839
企業会計	病院事業会計	4億7338	4億7338		
合計	162億614	152億6505	1億9433	7億4676	

決算指数の推移



* 経常収支比率

財政構造の弾力性を表すもの。高すぎると新しい施策は何もできなくなる。70%~80%が理想とされている。

* 実質公債費比率

自治体の収入に対する負債返済の割合を示すもの。(18%以上だと借入に国・県の許可が必要)

大丈夫か!!

新庁舎建設おおよそ25億円

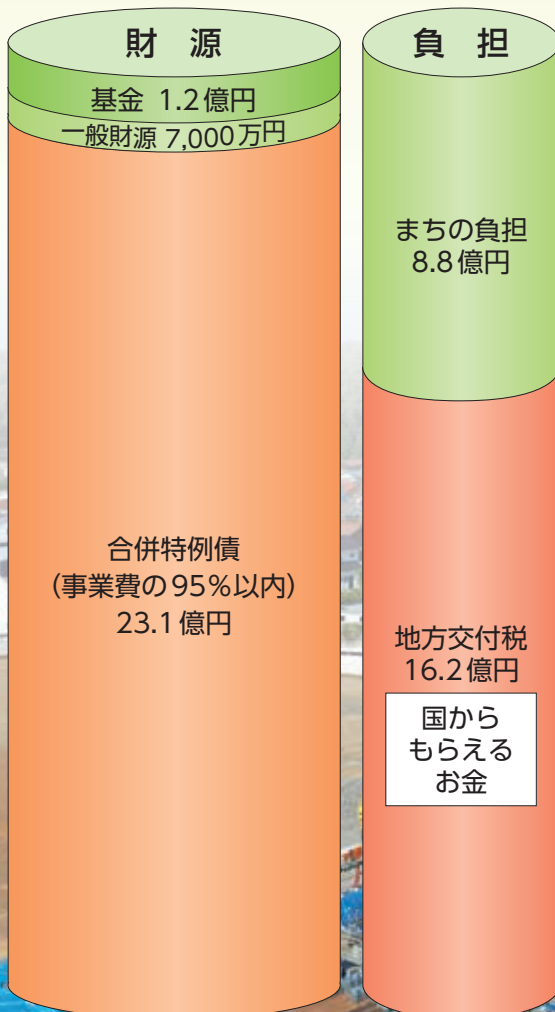
概算事業費：約24.97億円

償還期間：令和33年度まで

平均償還額：約1億円/年

※これに利子が必要(利子にも交付税措置がされます)

庁舎返済計画



年に9240万円返済すれば、その年度内に、6468万円(70%)交付税として算入される。実質2772万円/年の返済という好条件の優遇措置

※現在予定されている計画

返済計画は

新病院建設おおよそ30.6億円

病院返済計画

概算事業費：約30.6億円

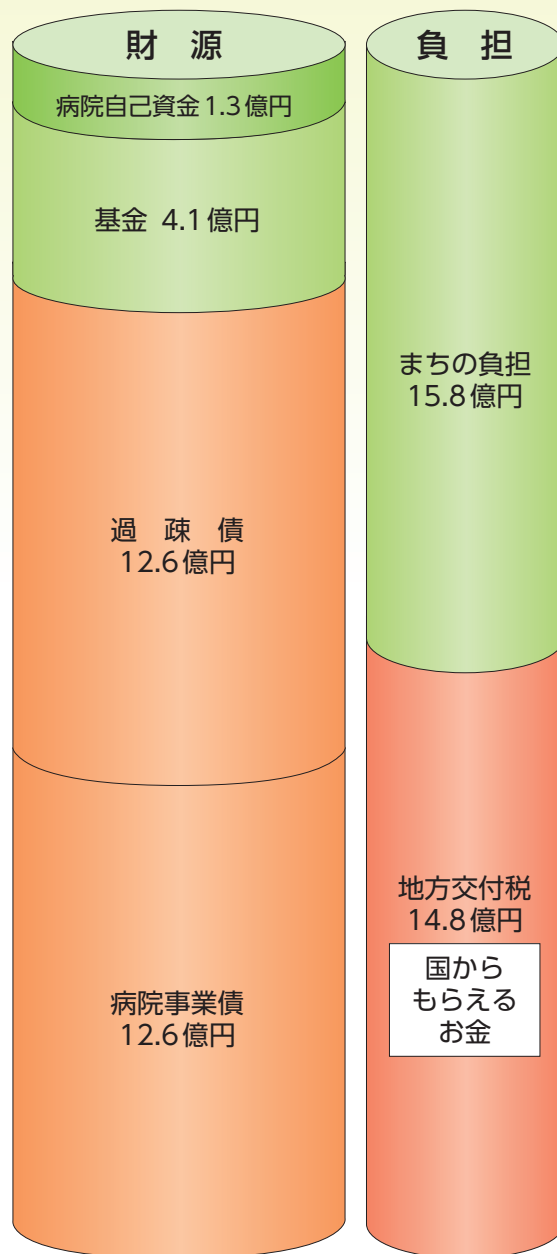
償還期間：令和33年度まで

平均償還額：約1億円/年

※これに利子が必要(利子にも交付税措置がされます)

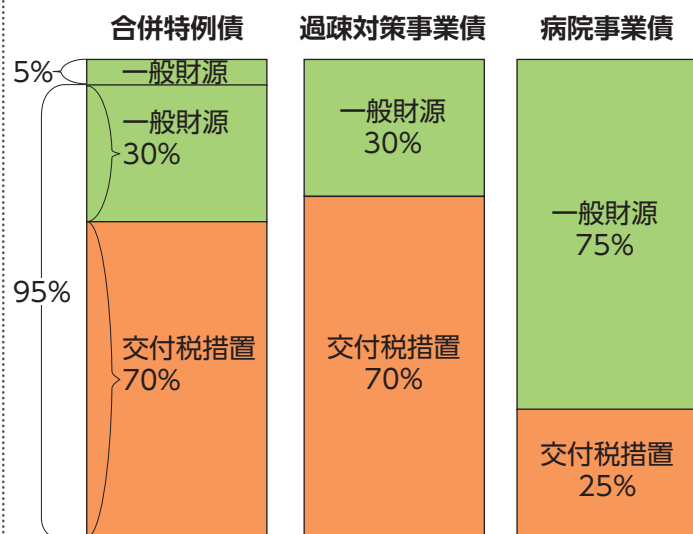
年に1億円返済すれば、その年度内に4750万円交付税として算入される。
実質5250万円/年の返済となる。

※現在予定されている計画



ちょっと豆知識

借金のいろいろ



★通常は、3年据え置き、15年元利等償還されます。

★償還額に対する一定額が、年度内に交付税措置されます。

合併特例債

平成の大合併を推奨するために設けられた制度
神石高原町の借入限度額は約100億円。
基金用の積み立て資金として限度額19億円はすでに借りている。

9月決算質疑

総務課

補助金交付

赤木議員 決算審査意見書に要綱に基づかない補助金交付がみられるとある。どういったことなのか。

総務課長 消防団の県大会での活動補助金を慣例により支出を行っていた。すでに要綱を制定した。補助事業の検証を行っており他のものは、規定通りになっている。

ふれあいタクシー

藤田議員 ふれあいタクシー事業の運行経費に対する利用者負担割合は

総務課長 運行経費8500万円で利用者負担は

20パーセントだ。

経常収支比率の増加傾向と財政硬直化

木野山議員 審査意見書に「経常収支比率が年々上昇し財政硬直化がさらに進んでおり、経常的経費の削減に一層の努力が求められる。」とあるが対応策は。

総務課長 公債費の上昇や施設修繕費の上昇も見込まれ今後も率の上昇は避けられない。今後は歳入に見合った歳出を基準に最大限歳出の抑制に努める。収入は町税収入の維持と町事業に対するふるさと納税確保の手法を検討する。

町長

歳出抑制は限界まで来ているが、主に物件費の内、委託料と修繕費、また補助費を中心に見直したい。

収入は、ふるさと納税と基金の運用益の増を目指す。

政策企画課

チャレンジ基金

藤田議員 チャレンジ基金に於いて町はどの程度口出しが出来るのか。支援決定が早すぎるのでは。早めに議会へ相談出来ないのか。また財団へ議会から参画出来ないか。

政策企画課長 理事会、事務局ともに十分に意見交換が出来ている。審査が早いということはない。一般財団法人でいくらかの制約がある。

町長 監査・理事として議会の代表の方に入っていたく事は考えられるので、財団と話をしてみたい。

奇定議員

フェアトラベルジャパンの事業は、国際情勢やコロナ禍の影響により、予定より遅れ

ているが、伴走型支援にどう取り組むのか。

政策企画課長 コロナ禍でインバウンドが厳しいので、国内向け事業計画の見直しを指示。財団と連携し10月の事業スタートに向け支援する。

年賀ハガキの効果

藤田議員 プレミアム付年賀ハガキの効果は。

政策企画課長 5万枚作成。7500円相当の神石牛を十本用意していた。交換されたのは2件であった。PRは出来たと思っている。

町広報誌の内容

久保田議員 町広報誌に議決しないのに令和元年度決算内容が出ているがなぜか。

「ここが腕の見せどころ、やりくり上手」など後援会報ならともかく、公金で作った町広報誌にこの言葉はいかがなものか。

政策企画課長 少しでも早く情報公開をすることが良いと判断した。

正確な情報発信

奇定議員 令和元年度決算を踏まえ、本町の財政状況の正しい情報発信に努めるべきだ。

町長 財政状況の正確な情報をHPや広報に掲載している。引き続き



町民の交通手段として愛されるふれあいタクシー

迅速確実に情報提供し、町民と共有しながらまちづくりを進めていきたい。

寄附議員 本町の最大の課題は「人口減少対策」と考えるが、各種計画や総合戦略の実施に向けての方針と決意は。

町長 人口減少対策は第2期総合戦略を確実に進める。災害対応やコロナ対策をしっかりと進めながら、総合戦略をオー

ル神石高原町として進めていきたい。

まちづくり推進課

ふるさと応援寄附金

小川善久議員 平成30年度と令和元年度の寄附金額に差がある。なぜ差が出たか。



「にしかわ」化石の展示

まちづくり推進課長

楽天との連携協定で寄附金額が大幅に増加した。平成30年度はサイトの上位で閲覧できたが、翌年になるとそれが下がる仕組みなので、寄附金額が下がった。

NPO法人は、返礼品の工夫で金額が上がった。

木野山議員 ふるさと納税は全体では伸びているが町事業や自治振興会関連では減少している。伸びているところを参考にするなど対応策を伺う。

まちづくり推進課長

自治振興会関連で伸びているのは、地域の出身者など関係人口である地域の応援者からが多い。心のこもったお土産品など絆の強化が必要だ。制度をさらに充実させたい。



遊びを通して達成感や満足感を親子で共有する「わくわくランド」

ブライダル事業

横山議員 ブライダル事業は成果が見られない。抜本的に見直しをすべきでは。

まちづくり推進課長

今までに2組の成婚があった。行政主導では限界があり、今後は青年会や協働支援センターに主体を移した事業展開が考えられる。

化石の保存と活用

横山議員 油木の「にしかわ」で、化石の整理を地域おこし協力隊員が取り組んでおられるが、将来この化石の保存方法について、町としての考えは。

まちづくり推進課長

現在60%くらいの整理ができています。地域おこしにつながる

ようなしくみづくりを隊員の任期中に考えていきたい。

体育施設の今後

横山議員 体育館やグラウンドの維持管理費が増加しているが、検証と見直しをするべきでは。

まちづくり推進課長

老朽化がすすみ、改修費の増大が予想される。すべての施設を維持していくのは困難な状況にはなってくる。

しかし、地域コミュニティを図る重要な施設なので、地域バランスなども考慮しながら計画に盛り込んでいく。

子育て応援課

「にっこり」の充実

寄附議員 妊娠・出産・子育て支援を一体的に実施する、子育て世代

に実施する、子育て世代

包括支援センター」に「いろいろ」の役割は重要だ。周知・啓発に努め、さらなる充実をすべきでは。

子育て応援課長 昨年度実施したアンケート調査結果を踏まえ、子育て世代包括支援センターの周知啓発に努める。

来々4月から母子保健法改正に伴い、「産後ケア事業」の一部が改正される。

母子及び家族が健やかな子育てができる環境づくりに取り組む。

保健福祉課

保健委員研修会

小川善久議員 保健委員研修会は住民の健康づくりの意識啓発となっているか。

保健福祉課長 保健委員さんに健康意識を高めてもらい、地元で広めていただいている。

30年度の健康診断の健診率は、48・9%で近隣市町より高い成果である。

小川善久議員 個人情報観点から健診表の取りまとめはなくなった。

地域の人員不足を考えると、保健委員を選出することが難しいのでは。

保健福祉課長 健康意識を高めてもらうには、それを推進していただく人が必要と考える。

小川善久議員 保健委員制度より健康出前教室の方に力を入れるべきでは。

保健福祉課長 対応日が原則平日の昼間となっている。多くの人が利用できるよう検討していく。

高齢者サロン

横山議員 住民運営のサロンが多く開設され、

成果が出ていると思うが交通手段の事で、まだ行きたくても行けない人がいると思われる。対策は。

保健福祉課長 サロンは、運営の担い手の確保と高齢者の交通手段が課題だ。介護予防には不可欠なので、今後はあらゆる手段を検討していく。

住民の幸福感は

林議員 令和元年度の決算状況から当該年度の予算執行がいかに住民の幸福感に貢献できたか考えるか。

保健福祉課長 要介護状況になる前の調査で健康であると回答された方が74・5%。幸せへの程度の質問に関して10点満点で8と答えた方が44・4%。

この状況を他市町と比較したところ、健康については上位で、幸せについては中程度というところだ。

多様な生き方への対応

林議員 移住者やひとり親家庭などに対する定量的な事業効果を決算状況から聞く。

町長 総合戦略に沿って実施しそれなりの成果があった。

ホームページの多言語化や女性・人権啓発の理解のための研修会やブライダル事業も行った。定量的に効果をあらわしにくい。

産業課

道の駅

久保田議員 クラフトビルは販売試算表どおり売れていないが今後の方針は。

産業課長 当初は道の駅で醸造し販売する予定が、福山の醸造所に製造委託

となった。事業計画を見直し、ネットや百彩館などで販売する。

久保田議員 次世代議会に蛇口をひねればトマト

ジュースが出る提案があったが設置されたか。

産業課長 準備はしているが、コロナ禍で蛇口での感染防止のため収束してから設置する。



様々な提案がされた、次世代議会

令和元年度 決算審査意見書(抜粋)

代表監査委員 橋本 龍之 監査委員 橋本 輝久

平成31年(令和元年度)の予算編成は、災害復旧を優先し(新庁舎建設・病院建設事業の中断)定住促進、教育環境整備、生活環境整備 また、子育て支援・教育支援に配慮し、予算配分した事業推進がされた。

実質公債費比率は、前年度の6.5%よりさらに0.2ポイント改善し6.3%となり、昨年に引き続き改善している。一方、経常収支比率が過去4年間上昇し続け82.2%となり1.9ポイント増となっている。

財政硬直化がさらに進んでいることから、経常的経費の削減に一層の努力が求められる。

そのためには地方交付税の縮小の中、歳入の確保、歳出の縮減に努められるとともに、事業の優先度や緊急性を精査することにより、最小の経費で町民の皆様が「神石高原町に住んで良かった」と実感できる行財政運営に、職員一人ひとりが強い危機感を持って職務に当たることが重要であり、基礎・基本を理解し効果的かつ効率的な業務の遂行に引き続き務められたい。



指摘・要望事項

①各種補助金交付について

各課において補助金交付をしているが、一部要綱に基づかない交付決定・支出が見られた。引き続き事務を適正に行い、前任者等の慣例にとらわれず、条例・規則を確認の上、執務を適正にされたい。

②分収造林事業

町行造林台帳整備を早急に行い、枝打ち・間伐等施業を適期に行うよう計画されたい。

③山村活性化支援交付金事業

道の駅さんわ182ステーション特産品開発業務は、業務委託契約により昨年度に引き続き同業者と契約しているが、打合わせなど深くかわり、意見交換がなされることなく工期を迎えている。発注者として、主体性のある特産品開発事業を推進されたい。

④指定管理料について

各施設の指定管理料を精査して、繰越額が多額の施設は、減額を含めて交付額を見直されたい。

⑤スクールバス管理運営について

安全なスクールバス運行に向け、町有スクールバス19台の管理台帳を据え付けて修理・部品交換など、整備状況を整理されたい。

令和2年度 9月補正予算

	補正予算額	補正後予算現計
一般会計	2億4927万円	142億5375万円
特別会計 病院事業会計	1886万円	48億852万円
補正総額	2億6813万円	190億6227万円

(四捨五入)

主な補正事業

令和2年7月豪雨災害復旧事業

- ・農地及び農業用施設復旧

補正額 **8874万円**

- ・林道施設災害復旧

補正額 **1300万円**

- ・道路橋りょう災害復旧

補正額 **9853万円**

コロナ関連で中止になった事業

- ・オリンピック・パラリンピック関連

▲417万円

- ・英語教育（海外研修中止など）
高校・中学合わせて

▲546万円

- ・他14事業

全中止事業合計 **▲1978万円**

コロナウイルス感染症対策予算

総務課長 今のところは2地域しか見れない。県に要望している。

林議員 山崩れ発生予知はオンラインで表示できるか。

総務課長 昨年の点検ではまだ使えるだろうとのことだったが、今回の点検で業者からの指摘があった。

赤木議員 山崩れ発生予知施設のバッテリーなどの交換だが、なぜ今回の補正なのか。本来は当初で上げるべきでは。

山崩れ発生予知施設

総務課

補正質疑

林議員 神龍中学校跡地の二宮尊徳像などの構造物はどうするのか。

構造物の伝承は

総務課長 本町は、医療、介護事業施設に対して3、5万円の支援を行っている。かなり少ない支援と思うが、広島県も同様な事業支援として、働く従業員に対して5万、20万円の支援を行っている。一定の支援はできていると思う。

橋本議員 新型コロナウイルス感染症対策予算は、9月補正予算を合わせ、約13億4000万円である。内訳は、拡大防衛対策約3700万円、事業継続や地域経済対策として、約13億1000万円、医療等現体制の確保対策に600万円だ。割合として医療、介護施設関係予算が少ないのは。

総務課長 地元の人と相談しながら、大切に扱っていききたい。

政策企画課

事業継承の支援事業

久保田議員 町内事業所を継承した場合、町外から帰った場合を対象として支援すると説明があった。町内で頑張っている後継者も対象とすべきだ。

財源の確保は

政策企画課長 町内での事業継承も対象にする。

赤木議員 チャレンジファンドと事業継承の支援の財源となる企業版ふるさと納税だが、確実に入ってくるものか。

政策企画課長 確実に入ってくるものではないが、

町外の企業への呼びかけや、町のPRを充実させ納税して頂けるようにしたい。

まちづくり推進課

かがやきネットケーブル張替え工事

小川善久議員 現在一部のテレビ局しか4K8Kの番組は見ることが出来ない。その改善のためか。

まちづくり推進課長 新規加入の引き込み・解約撤去・支障移転工事だ。今後の計画となるだろう。

イントラネット整備

木野山議員 イントラネットは生の情報を提供しており定期的・計画的な更新と拡張整備が必要と思うが対応は。

まちづくり推進課長

平成15年に整備した。役場本庁舎・支所・小中学校・保育所・協働支援センター・保健センター・活性化情報センター・図書館を光ケーブルで結び行政情報・議会中継の提供を行っている。

かがやきネットケーブル張替え工事

計画的な整備が必要で財政基盤を固め今後に備えたい。

大型公共施設の感染対策は

木野山議員 ホールなど大型公共施設の感染対策は。

まちづくり推進課長 地域コミュニティ施設の空調と大型施設ではトイレなどのスイッチレス化を考えている。

環境衛生課

環境美化推進事業

寄定議員 神龍湖のみ処理は、上流で食い止める対策や不法投棄防止など抜本的対策が必要では。

環境衛生課長 不法投棄のごみが豪雨により流入し

横山議員 百彩館の老朽化に伴う、修繕計画は。

たものを流木などとあわせて処理する。抜本的な対策や、上流部でゴミを食い止める対策は重要。不法投棄のパトロールを実施するなど、環境美化活動に取り組む。

産業課

油木百彩館の今後

副町長 計画は立っていないが、今後の運営計画によっては、大規模な修繕も必要になってくる。

油木地域で大切な拠点なので地域に合う施設にしていきたい。



神石高原町の宝、帝釈峡神龍湖の美化を

7月31日

主に災害復旧とコロナ対応交付金の認定

一般会計補正予算

補正額 **3億268万円** 総額 **140億449万円**

主なもの

・コミュニティ施設等管理運営

補正額 **3640万円**

利用者の安全安心のためエアコン設置やトイレ改修

・新生児臨時特別給付

補正額 **300万円**

基準日の翌日以降に生まれた新生児に特別定額給付金の支給

・学校再開に伴う感染症対策

補正額 **1694万円**

換気対策のため、網戸の設置 スポットエアコン ジェットヒーターの配備

・災害復旧

補正額 **3050万円**

令和2年7月豪雨災害の道路橋りょう・農地・林道などの復旧

8月20日

神石へき地診療所設置

神石地区の医療を継続的に維持していくため、鈴木クリニックを町が取得医療は引き続き鈴木医師が行われる

取得価格 **2156万6千円**

- ・神石高原町立神石へき地診療所設置及び管理条例の制定
- ・町が取得するための売買契約の締結

財産の取得



鈴木クリニックの待合室

- ①土地 所在 神石高原町福永1439番8 他2筆
地積 1,050.30㎡
- ②建物 所在 神石高原町福永1441番地2
種別 木造2階建て
建築面積 334.60㎡
延べ床面積 597.27㎡
棟数 3棟
- 相手方 神石高原町福永1441番地2
鈴木 強



9月議会で認定

指定管理者の指定

施設の名称 神石高原町立神石へき地診療所
指定管理者 鈴木クリニック 鈴木 強
指定期間 令和2年10月1日～令和4年3月31日

賛成 8人
反対 2人

議員定数

12人から10人へ

神石高原町議会の議員の定数を定める条例の一部を改正

・議員の定数を定める条例の一部「12人」を「10人」に改める

提出者 寄定 秀幸
賛成者 橋本 輝久

提案理由(抜粋) 議員定数等調査特別委員会において次期改選時の定数についての委員の多数決による最終的な確認をとり、現状維持の定数12人が4人、定数10人が7人という結果から、委員会として定数を10人とし、本会議に本条例案を上程した。

議会基本条例の一部を改正

・災害時における議会及び議員の基本的な対応についての指針

提出者 寄定 秀幸
賛成者 橋本 輝久

議会委員会条例の一部を改正

・議員定数の削減に伴い、総務文教常任委員会及び産業建設常任委員会の定数を5人とする

提出者 寄定 秀幸
賛成者 橋本 輝久

反対討論

林 憲志議員

町政に対する住民の代表として、議員定数の確保、議員の質の向上が喫緊の課題だ。選挙前に定数の削減を行うことは暴挙であり断固反対をする。

賛成討論

橋本輝久議員

議員全員の特別委員会の意見を尊重するべき。定数削減は議会の機能充実や存在感、また信頼され、住民の負託に答える議会であること、また、議員の自覚と資質向上も踏まえ、将来を見越した結果だ。

議員賛否表

○=賛成 ×=反対 欠…欠席

議案名	寄定 秀幸	藤田 晃己	木野山孝志	小川 清治	久保田龍泉	橋本 輝久	横山 素子	赤木 俊二	林 憲志	小川 善久	松本議長
議員の定数を定める条例の一部を改正	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	—
議会委員会条例の一部を改正	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	—

その他は全員が賛成 議長は採決に加わらない

町政の「こころ」を聞く

質疑の一部を要約してお伝えします
全文については順次更新しますので、町ホームページをご覧ください。



久保田 龍泉 議員

問

町立神石へき地診療所の
協定内容は



町長

答 現在協議中

問 へき地診療所の施設
修繕費や備品の負担

答 収入があるので、と
りあえず0円だが、政策
医療交付金の中で指定管
理料も含めて調整中だ。

問 0円はおかしい。ど
の町有施設も指定管
理料を出している。

答 町長 指定管理者は
鈴木クリニックで指
定管理料は0円。

問 町と指定管理者との
契約内容は。

久保田 龍泉 議員

割合は。

答 保健福祉課長 町立
病院とは規模が違う
ので、修繕費は低めに考
えている。備品は指定管
理者の所有である。

問 陽正会へは政策医療
交付金のうち医業収
益1%を病院職員に還元
している。へき地診療所
職員への還元はしないの
か。

答 保健福祉課長 町立
病院と同じように医
業収益1%を職員に還元
も含めて協議する。

問 訪問診療や訪問看護
の移動補助は。

答 保健福祉課長 政策
医療交付金に入れる
よう協議する。

問 ふれあいタクシーは、
病院へは600円に

見直すべきでは。

答 副町長 通院や他の
用事との区分けが難
しい。
病院だけ料金を据え置
いた場合、財政負担はど
うかを改めて検討したい。

チャレンジ基金

問 財団の事務所運営費
は寄附金を充てると
言われるが、今年度いく
ら寄附があったのか。

答 政策企画課長 現在
まで約300万円

問 運営経費は毎年11
00万円程度予算化
している。寄附が集まら
なければ町費が必要だ。
やめたらどうか。

答 政策企画課長 これ
までの寄附金があり、
町からの支出がないよう

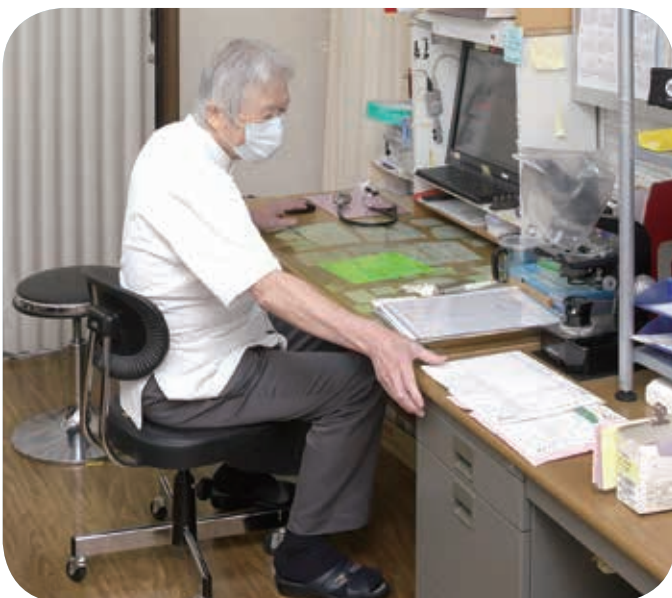
財団が運営する。

問 財団は外設的に設置
することで事業運営
に対する責任の所在を明
確にすることが可能にな
る、どのように明確にさ
れているか。

答 政策企画課長 町か
ら財団に貸した金は
7月で9000万円にな

る。民間の方に役員に
入ってもらい、民間の意
見を取り入れることで責
任の所在が明確になる。

その他の質問
道の駅について
学校給食費



町の指定管理となる鈴木クリニックの診察室



木野山 孝志 議員

問 学力状況調査で判明した課題への取り組みは

答 各学校でも独自の取り組みを展開

教育長

問 本年度の学力・学習状況調査は中止となったが昨年判明した次の課題についてどのような取り組みがあったか。

「算数・数学」

- 必要なデータを収集分析し課題を解決する事
- 数学的表現を用いて表現すること。

「英語」

- 全国・県平均を下回った。

○あらすじを理解し、肯定文や否定文を正確に書くことができない。

答 教育長

「算数・数学」

小学校では情報過多の問題や複数の考え方ができる問題を扱い、ペア

トークやグループトークを取り入れ説明や理解ができる授業を展開している。

中学校では、必要な情報を収集、整理分析し教科用語を用いての説明ができるよう論議場面を取り入れ、深い学びとなるよう授業展開している。

「英語」

コミュニケーションを行う目的や場所を明確にし、対話的な学びに繋がっている。単元テストの誤答やつまずきを把握し再指導に生かしている。意図的学習班を編成し個人思考を深めるなど課題解決に努めている。

各学校でも課題解決に向け独自の取り組みを展開している。

問

油木高校の「はやぶさ塾」は大きな成果が上がっている。信頼される本町の教育を確立するため中学校レベルで、英語も含め「公営塾」を町立で開設したらどうか。

答 教育長 本町は広域であり一か所に限定すると保護者の負担も大きい。現時点ではその考えは持っていない。

答 町長 中学校レベルでの塾は民間を利用されたら良いと思う。

学校教育の充実とまちづくり

問

「まちづくりは人づくり」と言われる。特色あるまちづくりの中にあつて、学校教育の充実に包含される各施策は本町の信頼に繋がる。

答 教育委員会 役割は。教育長 子供たちが健康やかに育ち、活力

ある社会の形成者として生涯にわたる学習の基礎を培い、豊かな心を持ち、たくましく生きる人材を育成するためには、教育の果たす役割は極めて重要だ。教育における「不易と流行」を確実に見極めつつ様々な施策を講じ、



油木高校の「はやぶさ塾」

「未来を拓く人と、文化の創造」故郷を愛する人材の育成を目指して取り組みを進めていくことが、教育委員会に託された役割だと考えている。

子育てをしたいと思える安心安全で魅力ある質の高い「教育環境整備」が必要だかと思うか。

答 教育長 子育てとま

問 町教育行政は、町内外の若者がこの地で

連しているのだから併せて様々な方面で協議をしていきたい。

問 公共工事の平準化への取り組みは



寄定 秀幸 議員

町長

答 生活インフラ整備にも検討

問 道路の舗装工事や修繕工事など短期で行える事業においても、平準化を踏まえ年間を通して必要に応じて事業を進められる体制を整えておくことは、地域住民の安全を守る上で大切である。公共工事の平準化への取り組みは。

答 町長 年度早期の発注や、速やかな繰越などの手続きにより平準化に努めているが、ここ数年は災害復旧工事を最優先し取り組むため、建設業者の状況を考慮しながら単町の維持修繕工事などの発注を行っている。

問 国土強靱化地域計画の策定は、県内市町で2番目の速さで取りまとめることができた。国土強靱化地域計画は、本町の防災・減災に係るマスタープランとなる。このプランの方向性に基づき、各分野毎に長寿命化に係る修繕計画など個別計画を策定し、予防保全に努めたい。

答 町長 予防保全は非常に重要である。国土強靱化地域計画の策定は、県内市町で2番目の速さで取りまとめることができた。国土強靱化地域計画は、本町の防災・減災に係るマスタープランとなる。このプランの方向性に基づき、各分野毎に長寿命化に係る修繕計画など個別計画を策定し、予防保全に努めたい。

道路インフラにおいて重要な橋梁・トンネルについては、高度成長期に作られたものが多く、定期的に調査し修繕する予防保全を行うことが長寿命化を図り、また財政の



橋梁などは定期的な調査・修繕が長寿命化に繋がる

今後は生活インフラに関する工事や修繕等の導入について、手法や課題を検討していきたい。

問 防災・減災、国土強靱化の観点から、インフラの老朽化対策として、予防保全が重要であると考えるが、取り組みと今後の方針は。

答 町長 予防保全は非常に重要である。国土強靱化地域計画の策定は、県内市町で2番目の速さで取りまとめることができた。国土強靱化地域計画は、本町の防災・減災に係るマスタープランとなる。このプランの方向性に基づき、各分野毎に長寿命化に係る修繕計画など個別計画を策定し、予防保全に努めたい。

安定化などにつながるものと考えている。

問 長寿命化、予防保全の具体的な取り組みは。

答 建設課長 橋梁の点検数は423橋。健全度3の早期措置段階の橋がある。

橋梁の修繕により60年間で25億円、37%のコスト縮減につながる。国の補助を活用し計画的に速やかにやっていく。

問 持続可能なまちづくりのためには、財政健全化を維持しながらも積極的な町政運営が重要では。

答 町長 就任以来、持続可能な行財政運営を念頭に、町政運営に努めてきた。交付税が減る中で、町の貯金になる基金はほぼ変わらず、借金は減らすことが出来た。対する事業は、総合戦略に沿って計画的に行って

きた。

人と自然が輝く神石高原町がこれからも、輝き続けるためには、町民が納得できる行政運営が1層大切であると思う。

町民の意見に耳を傾け何が求められているかを把握した上で、将来にわたって「安心と安定」した神石高原町を目指していきたい。



小川 善久 議員

問 チャレンジファンドの運営費は

答 補助金に頼らない資金の確保をする

町長

問 財団は、事務局の運営費を町の補助金だけに頼らず、独自で調達する努力は行われるか。

答 町長 自己資金確保のため、町内の法人会や金融機関を定期的に訪問し、休眠預金申請や公益化への取組も進めている。

問 財団法人の事務局体制に変化があったか。

答 町長 本年度から2人の町民に入って頂き、現在、3人体制で行っている。

問 給与手当など経常費用が増加すると思われる。人件費はいくら増えるか。

え、これも町が補助するのか。

答 政策企画課長 当初補助金を出す予定はない。1人役の業務を3人でやるので、全体では増えると思われるが、予算上では、昨年まで事務局をやられていた人の給与を減らし、その分を2人の人件費にする。

昨年と同等の人件費で抑えられる予定だ。コロナ禍で月2、3回東京から来る予定をリモートでやり、現在までその費用も掛かっていない。

問 法人会や金融機関に資金獲得をしているか。

答 政策企画課長 財団法人の決算の状況や資金を出資した事業者の説明をしながら、かかる経費に対し、お願いをしている状況だ。

問 メリットもないのに説明だけで、お金が集まるのか。

答 政策企画課長 メリットもないのに資金が集まるとは思っていない。企業版ふるさと納税や、一般のふるさと納税、休眠預金といったものを活用し、資金の獲得を計画されている。

問 定款には産業の振興及び地域のにぎわいの創出に関する情報提供普及・啓発に係わる事業とある。財団自身が講師を呼び、講演会を企画・運営すればより能動的な資金確保となるのでは。

答 町長 財団に係わっているメンバーは全国的にすごいネットワークを持っている。講師も素晴らしい人を呼ぶことが出来ると思うので、提案したい。

問 事前でも事後でも構わないが、公開でビジネスプランを発表させ

ることは、町民から理解・共感を得られるのでは。

答 町長 出資をしている8事業者は、必死

で頑張っている。そのモチベーションを中間報告のような形で、発表させる場を設けるよう提案したい。



チャレンジファンドを活用してできた、新しいお酒「浄酎」

問 コロナ禍の介護・医療との連携は



林 憲志 議員

町長

答 調整本部を設置し連携を確認

問 本町の雇用を支える工場など事業所の状態をどう捉え支援を考えているか。

事業所への支援

問 コロナ禍の介護事業所の対応や医療との連携は。

答 町長 医師、福祉サービス関係者行政機関など関係機関が連携し、十分な感染防止対策の確保を図るため、調整本部を設置、情報共有やクラスターが発生した場合の対応など確認した。

問 国の交付金を利用し、直接的な支援策として小規模事業者への支援を実施。9月1日現在 212件749万4千円余り給付した。申請時に当該事業所の状況の聞き取りを行い、内容を詳細に分析。必要があれば、追加支援策を検討する。

答 町長 国の交付金を利用し、直接的な支援策として小規模事業者への支援を実施。9月1日現在 212件749万4千円余り給付した。申請時に当該事業所の状況の聞き取りを行い、内容を詳細に分析。必要があれば、追加支援策を検討する。

問 防疫目的のPCR検査の体制整備を

答 町長 県では、感染リスクの低い唾液検体によるPCR検査ができる体制の整備や、かかりつけ医などの判断により迅速に検体採取する医療機関の大幅な増大を考えている。

8月20日時点で県内673の医療機関において整備中であるが、町内で出来るようになるかは風評被害などの危惧があり今時点で公表できない。

新型コロナ接触確認アプリ「COCOA」



問 新型コロナウィルス接触確認アプリの普及を拡大を。

答 町長 アプリやQRコードを登録することで陽性者と接触した可能性が分かり、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができ。利用者が増えることで、感染拡大の防止につながる。期待される。ホームページや広報で周知していく。

問 コロナ禍の国民健康保険の減免制度があるがあまり広く知られていない。周知の徹底を。

答 町長 現在1314世帯中7件の申請がある。制度の周知については、現在のホームページや広報誌などで行い個別には、6月に発送した納税通知書にお知らせを同封し周知を図った。窓口や電話などで納付の相談があった際は、コロナ

問 取り組みの進捗は。

答 教育長 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、まずは保護者や地域住民の方との情報や課題を共有し「これからの時代を生きる子供たちのために」という共通の目標やビジョンを設定し、同じ思いで日々の教育活動を推進していく必要がある。現在、令和3年度からの実施に向けて、「学校運営協議会規則」の策定を進めている。

コミュニティスクール



赤木 俊二 議員

問 今後の行財政運営は

答 優先順位を決めて取り組む

町長



問 近年、一般会計で100億円を超える予算が計上されているが、長期的には歳入は減少傾向にある。

交付税や基金は減り、起債は増えていることに

対し将来を不安視する町民の声も聞く。今後の行財政運営をどう考え、どう取り組んでいくか。

答 町長 庁舎・病院や保育所など、大きな投資を必要とする事業があり、災害復旧なども大きな決算となる。

基金の減少は、今後の財政運営を有利に進める目的で9億円の繰り上げ償還を行ったことが要因

だ。

毎年、公債費が減り支払う必要がなくなった利子や交付税参入額を併せて5300万円が効果額となり、財政メリットは大きい。

使途に制限がない「財政調整基金」は、令和元年度決算で47億3300万円と平成28年度と比較して500万円余り増えた。この6月には決算剰余金をもとに基金の積み増しし、現在は50億円を超えている。

今後は、歳入が減り続ける。それを補うため基金と有利な起債を活用していく。歳入に見合う歳出が基本だが大型事業が続くここ2、3年は、出来るだけ無駄を省きつつ、基金などを有効に活用していく。

また、総合戦略を確実に実行していくため優先順位を決めてしっかりと取り組む。

スマホ子守

問 乳幼児にスマホを渡してアプリで遊ばせたり、アニメ動画を見せたりして子供を放っておくケースが問題となっている。スマホに子守をさせることに対して、メリット・デメリットがあり様々な意見がある。町はこの問題をどのように認識しているか。

答 町長 日本小児科医会の子どもとメディア委員会では、すべてのメディアへ接触する総時間を基本的に「2時間以内」を「目安」として生活の中に取り入れてほしいと提言され、多くの文献で、スマホに疑問を持っている内容の報道がされていることは知っている。

町の乳児健診に来ていただいている小児科の先生から、2歳までの子供には刺激が強く一方のスマホなどのメディアより、



親子のふれあいがあるブックスタート

絵本など親からの双方向性のある関わりが好ましいと聞いている。

答 子育て応援課長

個々の家庭で状況は違うので、一概に子供に悪影響を与えるのでスマホ

ホを見せてはいけませんとは言えないが、スマホを長時間みる事でのリスクなどについて、乳幼児をお持ちの保護者の方へ伝えるよう取り組んでいきたい。

問 超高付加価値農業振興の成果は



横山 素子 議員

町長

答 農業所得向上に繋がるしくみ作りができた

問 8つの挑戦のうち挑戦1に掲げた超高付加価値農業振興において、J-INプレミアムブランドという町独自のブランドの立ち上げ、都市部への販売戦略、産直市場のリニューアルなど多くの事業をこの4年間で取り組んで来られた。その成果と今後の展望を伺う。

答 町長 成果は今後何年かにわたって現れてくるものと思う。農業生産者が良いものを作れば、確実に高く売れるという所得向上に繋がる仕組み作りができ、挑戦すれば結果が生まれるというまちづくりの一端はできた。

これからも、地域資源を生かした活力あるまちづくりを進めていきたい。

問 新たな町の特産品として、米・トマト・シヨウガを使ってクラフトビールが作られた。販売状況は。

販売状況は。

答 産業課長 今現在で、米は253本、トマトは174本、シヨウガは198本だ。目標にはまだまだ達しないが、今後販売に力を入れていく。

問 百彩館は、道の駅と統合されたが、客数は減り売り上げも減少している。存続の為に町としての対策は。

答 町長 産直市場のニーズが時代の流れとともに変わっている。百彩館は油木地域の重要な施設として、存続させる事を今後考えていく。

チャレンジ基金

問 空き家を宿泊施設に改修し、本町への旅行客数の増加と、関係人口を増やす目的の計画に對しての支援は、当初より計画が遅れており内容も変わっている。

インバウンドはコロナの影響でこの先も見通しが立たない状況だ。このまま遂行するのか。

このまま遂行するのは、このチャレンジ基金は、起業家を支援する制度だが、仕組みや、やり方に課題が見られる。再検討は。

答 町長 計画は延びては終わる10月にオープンする。

インバウンドは時代の趨勢だ。間違いない。その波が本町へ本格的に押し寄せてくるきっかけになることを期待している。

答 政策企画課長 事業計画の見直しをしている。

2022年まではインバウンドも良くなると思えないので、当面は国内の観光客を対象にし、今後の動向を見ながら、当初の計画を遂行していく。

問 新庁舎や病院が完成した後の跡地利用の計画は。

答 町長 こばたけ保育所建設検討委員会で保育所の建設位置についての答申も頂いているので、それも踏まえた上で、小畠地区のまちづくりをどう考えるかしっかりと検討していく。



基礎工事の中の新庁舎建設事業



こんなことが決まったよ

— 主なもの —

工事請負契約の締結

全会一致

工事名 神石高原町立病院建設工事
 請負者 戸田建設株式会社 広島支店
 金額 22億5815万円
 工期 至 令和4年1月31日

工事名 農業集落排水事業
 遠方監視システム工事
 請負者 株式会社アクア
 金額 5148万円
 工期 至 令和3年3月31日

全会一致

条例の一部改正

全会一致

- ・指定居宅介護支援等の事業を行うにあたり、主任介護支援専門員の不足のため介護支援専門員を管理者とすることができるようになった。
- ・神石高原町特別職報酬等審議会の委員数が10人から10人以内に変更された。

人 事

全会一致

人権擁護委員の候補者の推薦
 平元 清登 さん

国への意見書の提出

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書
 ・地方税財源の確保・充実に要望するもの。

提出者 橋本 輝久
 賛成者 横山 素子

教職員定数の改善及び義務教育費の国庫負担拡充を求める意見書

提出者 横山 素子
 賛成者 木野山孝志

防災・減災・国土強靱化対策の継続・拡充を求める意見書

・大規模自然災害の被害を最小限に抑え、迅速な復旧復興へとつなげるため。

提出者 寄定 秀幸
 賛成者 小川 清治

種苗法の改正について慎重な審議を求める意見書
 ・農業者に大きな影響を与えることのないよう、慎重な審議を求める。

提出者 木野山孝志
 賛成者 橋本 輝久

4年間お世話になりました



皆さんの深いご理解とご協力に
感謝致します。

まちの声

皆さんの要望・意見・感想など
主なもの

●今秋は町長選挙・町議会選挙の年です。いろいろなうわさは出ています。しかし、人口の減っている現在議員数を減らしてもよいのではないのでしょうか。税金も多額必要と思います。

70代 女性

●今、世界中新型コロナウイルスで大変ですが、町民全体で一つになつてコロナに負けないようにみんなが頑張ろう。

60代 男性

●ケーブル議会放送も見ています。

80代 女性

●ターニングポイントと我も我もと若い人が入ってくる、町の活性化目指して議会は頑張ってください。

80代 女性

議会クイズにたくさんのご応募ありがとうございました。皆様からいただいた声を受けとめ、前向きに取り組んでいきます。

クイズの答え

- ① 負けない
- ② 医療体制
- ③ 油木高校

第45回議会クイズ当選者

油木地区

木坂 眞弓さん

おめでとうございます！



さんわ182ステーション発 「伝説の地ビールになるか!」



クラフトビールは道の駅での製造販売を公募しましたが、応募者がなく福山の業者に製造を委託しました。

道の駅で製造販売することに意味があり、販売計画が達成できるのかという意見もありました。

議会報告会では各会場とも反対の声も聞かれました。

道の駅182ステーションの目玉商品としての商品力に期待し、地ビールとして販売を開始しました。

9月末現在の販売状況は、米が331本、トマト247本、ショウガ198本です。

町長はトマト風味が一番のお気に入りだとか。

「雨降って地固まる」

町民の注目を一身に集め、様々な意見が出た「伝説の地ビール」として進化を続けて、ヒット商品になることを望みます。



クラフトビールが置いてある商品棚。10月1日現在、ショウガ風味は在庫切れです。

元気なグループ紹介だよ!



湖水祭りで踊りを披露する皆さん

神石地区 帝釈峡小唄を踊る会

帝釈峡を盛り上げ、唄を引き継ぐ。

今から5年前、故郷を東城に持ち、今は都会に出られている方々により、帝釈峡を盛り上げていこうと神龍湖畔で「帝釈峡音頭」「帝釈峡小唄」の踊りをビ

デオに残すという企画がされました。

その中で東城町の方が「帝釈峡小唄」を踊られているのを見て、地元である私たちもぜひ踊り継いで行かなければという思いに駆られ「帝釈峡小唄を踊る会」を結成いたしました。

稽古を重ねて文化祭や湖水祭りに出演しています。またその企画がご縁となり神龍湖畔に小唄の再生装置の設置と歌碑の建立がされた時に踊りを披露し、華を添えられたのは大変嬉しいことでした。

これからも引き継いでいきたいと思います。

代表 藤井 年江

発行責任者 議長 松本彰夫
住所／広島県神石郡神石高原町小島二〇二五

TEL 0847-189-1340
FAX 0847-185-4201

第46回 議会クイズ GIKAI QUIZ

空欄に適切な言葉をいれてください

- 1 住んで良かったと〇〇できる
- 2 〇〇〇〇12人から10人へ
- 3 今後の〇〇〇運営は

💡 ヒント 議会広報をよく読んでね!

●応募方法

ハガキに「答え・住所・氏名(ふりがな)・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。

正解者多数の場合は厳正な抽選により、1人の方に5000円分のこうげん通貨券をお送りいたします。

応募は、1人・1通に限らせていただきます。

●あて先

〒720-1522 神石高原町小島2025番地
神石高原町議会事務局「第46回議会クイズ係宛」

●締め切り

11月16日(月) 消印有効

●個人情報の取り扱いについて

ご記入いただきました個人情報は、賞品発送および『まちの声』などの目的以外には利用いたしません。

議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は12月です

編集後記

今号をもって、4年間この広報誌を作り上げてきた広報委員のメンバーが変わります。

読んでいただく方に、わかり易く読みやすく、元気になるような広報誌を心掛けたつもりですが、至らない点も多かったと思います。

ただただ思うのは、いろいろな方に支えられ、またご迷惑を掛けながらもここまで出来たことに感謝の思いしかありません。

今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。
(赤木)

議会広報常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 赤木 俊二 |
| 副委員長 | 林 憲志 |
| 委員 | 木野山孝志 |
| 委員 | 横山 素子 |
| 委員 | 小川 善久 |

表紙の紹介

「家族でパン屋を営む 三宅さん一家」

